

# 事例研究報告

## 特別支援学校小学部の帰りの会における コミュニケーションの指導について

## 児童の実態

- 平仮名，片仮名を読むことができる。
- 気に入ったフレーズを繰り返して言って，他の人の反応を楽しむ。
- 慣れた教員や友だちに「どこ行くん？」などと話しかける。
- 内容はパターン化しているが，場面によっては，返答を受けると「職員室？職員室で何するん？」などと，やりとりを楽しむ。
- (物が)ある／ない，(人が)いる／いないを問う質問への回答は曖昧である。
- 一日の時間割や，単発的な行事以外の授業スケジュールは覚えていない。

## 教員の考え

「じっくり振り返りの活動をしたいが、  
待ち時間が増えてしまう」

「児童主体で進めたいが、教員がヒントを出したり、  
注意の声かけが多くなってしまったりする。」



# 指導1 指導目標

## 【集団の短期目標】

振り返りの活動【帰りの会】で、友だちに質問したり、質問を受け、楽しかったこと等を答えたりすることができる。

## 【指導目標】

友だちからの質問を受け、「音楽が楽しかったです。」等と答えたり、友だちに質問したりすることができる。

# 指導1 指導の手続き

## 【指導目標】

友だちからの質問を受け、「音楽が楽しかったです。」等と答えたり、友だちに質問したりすることができる。

## 【手続き】

①マイクを受け取る, ②「〇〇が楽しかったです。」と言う, ③マイクを手渡す, ④「〇〇くんは, 何が楽しかったですか?」と質問する。

## 【達成基準】

②④で, 合計6点獲得することが5日連続できると目標達成。

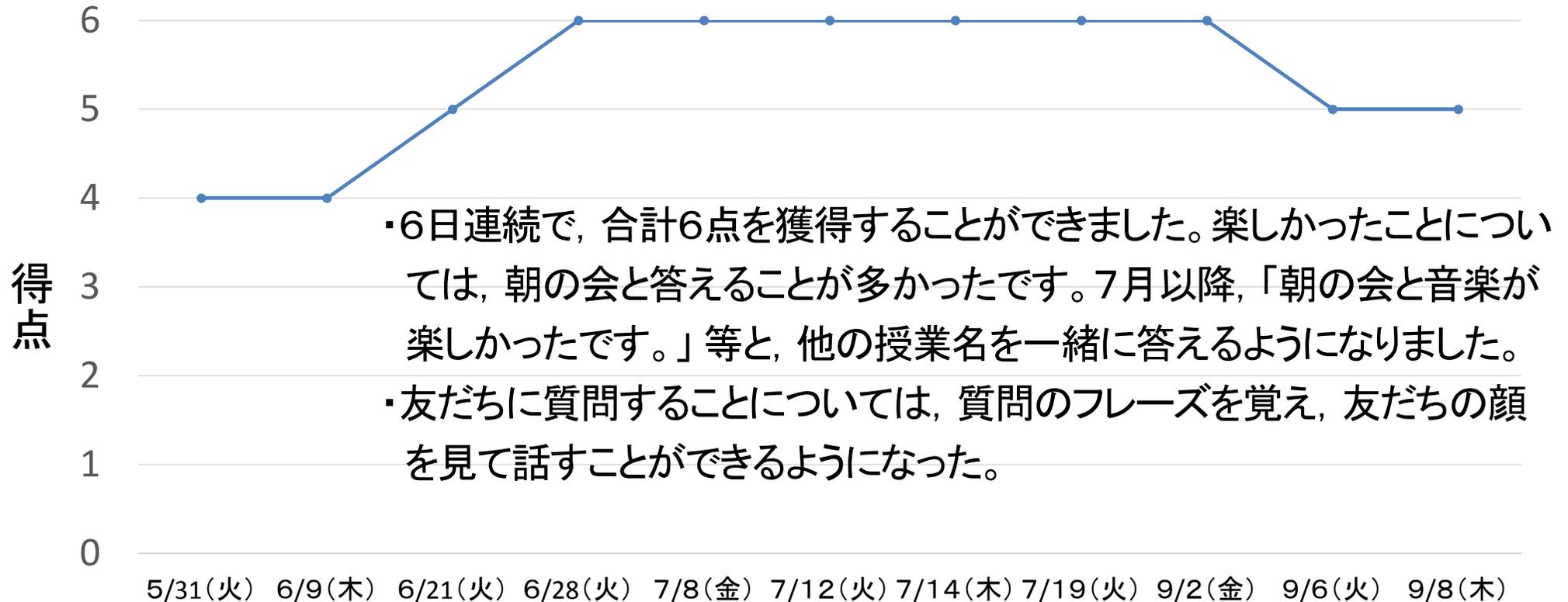
配点	独力でできた	3点	間接的なヒントで言えた	2点
	教員と言えた	1点	答えることができなかった	0点

## 【中止基準】

上記の手続きで, 合計0点が3日続くと中止し, 指導手続きを再考する。

# 指導1の成果

②, ④の合計得点の推移 (Aさん)



②「〇〇が楽しかったです。」と言う, ④「〇〇くんは、何が楽しかったですか？」と質問する, において合計6点が5日連続すると目標達成。

配点 独力でできた 3点 間接的なヒントで言えた 2点  
教員と言えた 1点 答えることができなかった 0点

## アドバイザーからの助言



### コミュニケーションの課題について 適切な実態把握をしましょう

#### 〈指導1のAさんの指導目標〉

友だちからの質問を受け、「音楽が楽しかったです。」等と答えたり友だちに質問したりすることができる。

#### 〈応答の発達 の 順序性〉

1. Yes/No質問に対する応答
2. だれ・どこ・なに
3. いつ
4. どのように・なぜ
5. 疑問詞+α (楽しかったことは何?どんな気持ち?)

上記の指導目標は  
5の段階

Aさん:(物が)ある/ない, (人が)いる/いないを問う質問への回答は曖昧

## 指導目標の見直し

帰りの会の「振り返り」の活動で、応答に関する発達の順序性と児童の実態を照らし合わせ、指導目標を見直しました。

### 【集団の短期目標】

- ・振り返りの活動において、実態に合った方法で一日の活動をふりかえることができる。

### 【Aさんの指導目標】

- ・振り返りの活動で、教員の問いかけ(だれと・どこで・なにを)に答えることができる。

## 指導2:教員の問いかけに答える

### 【指導目標】

振り返りの活動で、教員の問いかけ(だれと・どこで・なにを)に答えることができる。

### 【手続き】

教員が一日の授業から1～2つピックアップし、次の3項目について問う。

①「〇〇はどこでしましたか」②「だれとしましたか」③「なにをしましたか」

問う順番は、ランダム。間違えて答えた場合は、再度問いかける。

### 【達成基準】

合計6点(3項目×2点)獲得することが、5日連続できると目標達成。

配点 答えることができた 2点      部分的に答えることができた 1点

答えることができなかった 0点

### 【中止基準】

上記の手続きで、合計0点が3日続くと中止し、指導手続きを再考する。

## 記録方法と記録

・授業後，毎回記録表に記入した。

### 記録表の記入例

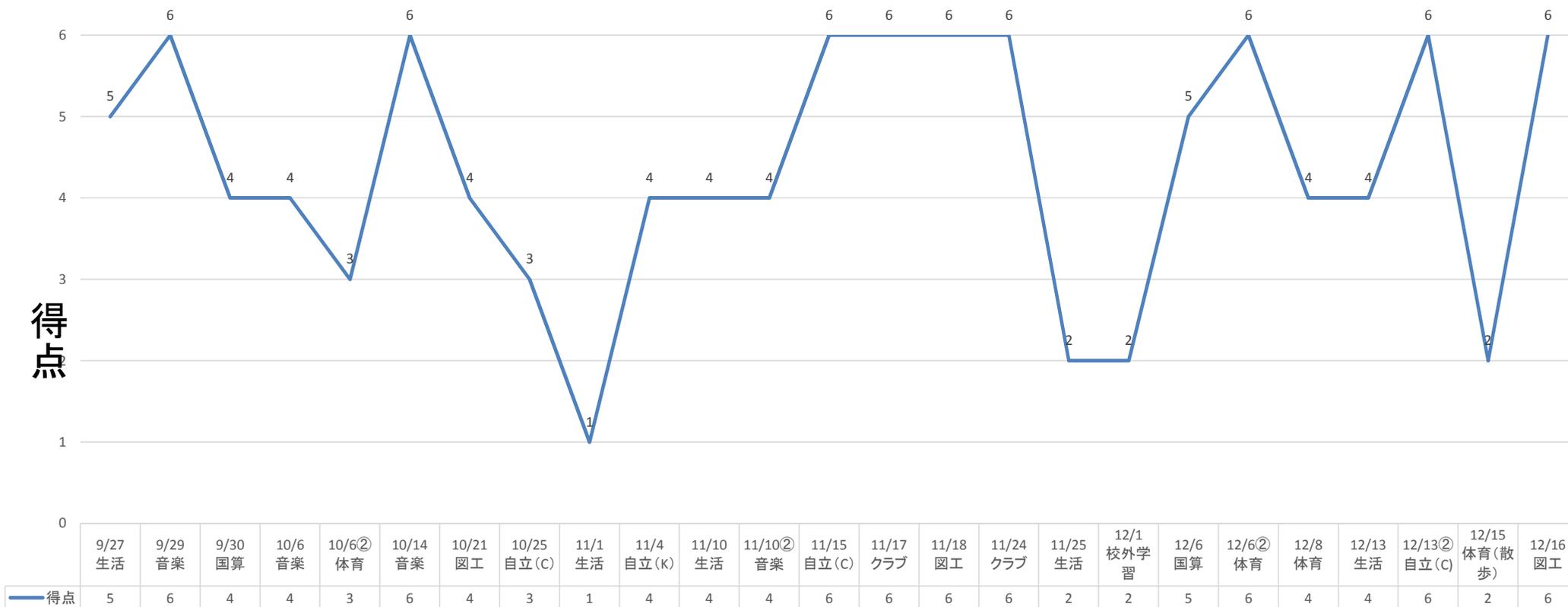
日付	12/6	12/8
授業名	国算	体育
①だれと	○	○
②どこで	○	○
③なにを	△	○
得点	5	6
備考 (特記事項)	①●●先生 ②教室 ③パッキング 生活(×)	①●●さん ②体育館 ③風船運び

### 表記方法と配点

回答の結果	記号	得点
答えることができた	○	2
部分的に答えることができた	△	1
答えることができなかった	×	0

# 指導2の成果

「朝の会が楽しかったです」等，授業名を答えたコンサルテーション前の振り返りに比べ，「寄  
宿舎のお風呂に入りました」等，「だれ」「どこ」「なに」について自分の言葉で回答できるよう  
なってきました。追加質問「どうだった？」に対し「気持ちよかった。」と答えることができました。



## 振り返りにおける合計得点の推移 (Aさん)

ある授業に関する「だれ」「どこ」「なに」を問う質問において，合計6点(3項目×  
2点)が，5日連続できると目標達成

配点 答えることができた 2点

部分的に答えることができた 1点

答えることができなかった 0点

# ここが成功のポイント



- 振り返りで応答の発達段階に応じた発問を行ったこと
- 応答に関する発達の順序性と児童の実態に合った指導を行うことができた。